

# 旅するドクター 2

今号の表紙: インド

泰永院長が旅の途中で撮影した、海外・国内の美しい風景を紹介します。

今回は2019年に訪れたインドを紹介させていただきます。一人旅を好む知人から「インドを旅すると、価値観が変わります。」と聞き、是非訪れたいと思っていました。

インドは、現在、世界で2番目に人口が多く(14億1200万人: 2022年7月国連発表)、2023年には中国を超えて、世界一になると予想されています。現地を訪れてみると、人が溢れていました。よく言えば、「生命力にあふれている」、悪く言えば「無法地帯化している」状態です。車に乗っていても、車道にまで人があふれて、なかなか進みません。平気で逆走するバイクや、3人~4人乗車のバイクもありました。道を歩いていても、人をかき分けるように進まなければならない、また道端には浮浪者がたむろしていたりして、恐怖を覚え、現地ガイドから離れないようにしていました。日本では想像できないカオスでした。しかし、ツアーで宿泊するホテルの敷地入り口は、空港のセキュリティと同様に厳しいもので、銃を持った警備員がガードしていました。ホテル敷地内は静寂で、混沌とした街中とのギャップが印象的でした。

前置きが長くなりました。写真上段①と写真中段左②は、ヒンズー教最大の聖地であるベナレスの写真で、その地にインド各地から信者が訪れます。写真上段①はアールティという祈りの儀式の写真で、毎晩、ヒンズー教の僧侶(バラモン)によって行われ、そ

の様子を信者や観光客が静かに見守っていました。写真中段左②は、ベナレスのガンジス川です。ガンジス川はヒンズー教信者にとって「聖なる河」で、ガンジス川に戻ることを心より望んでいます。朝、暗いうちから沐浴する信者も多く、その様子を舟に乗って見守るという行程がツアーに組み込まれていました。ガンジス川には火葬場があり、火葬後、川に流してもらうことが信者にとって至高の幸せで、それぞれ「聖なる河に戻る」こととなります。

写真中段右③と写真下段④は、アグラにあるタージ・マハルです。ムガル帝国第5代皇帝シャー・ジャハーンが愛妃のために、1653年に竣工させた総大理石の墓廟で、インド・イスラム文化の代表的建築物とされ、世界遺産に指定されています。写真下段④のように左右対称で、余りの美しさゆえ、国内・海外から多くの観光客が訪れていました。写真中段右③は、満月の前後2日の計5日間のみ許可される夜間見学の写真で、月明かりのみで暗闇に浮かび上がるタージ・マハルは妖艶な趣がありました。

さて豆知識ですが、インドは1月~2月の乾季が気温も低めで、過ごしやすく、旅行には最適です。

以上、インドを紹介しました。次号もお楽しみに!



**アクセス**  
[電車の場合]  
■大阪メトロ長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。  
[お車の場合]  
■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。  
■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。  
■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。  
■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。  
■1号線(第2京阪側道)(枚方方面)からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。  
病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブドームのコインパーキングをご利用ください。

[お問い合わせ先]  
医療法人 清翠会 牧リハビリテーション病院  
〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号  
URL <http://www.maki-group.jp>  
TEL.072-887-0010  
7 | まきりは vol.26

Medical for Happiness  
牧ヘルスケアグループ

牧リハビリテーション病院 広報誌

# まきりは

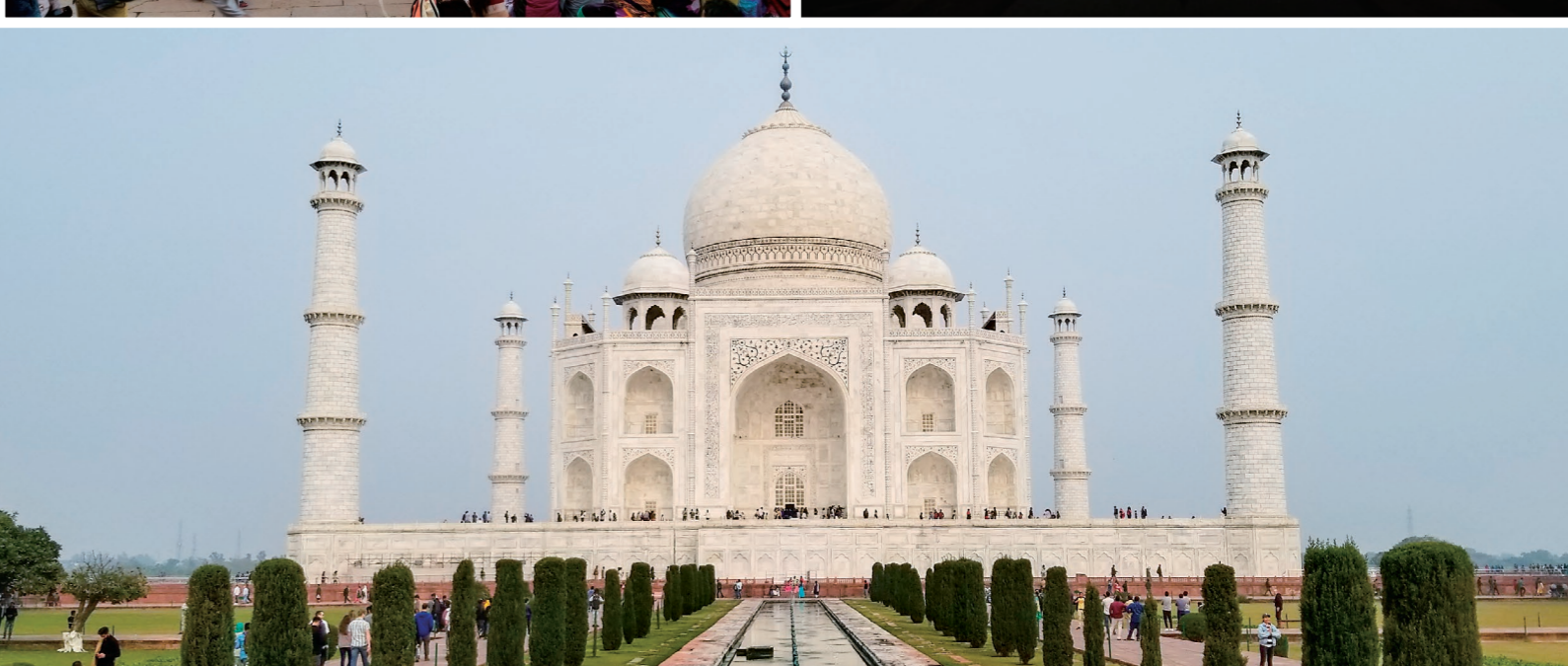
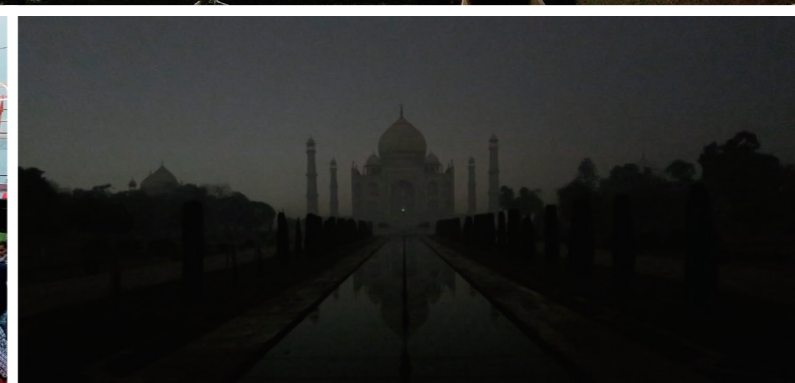
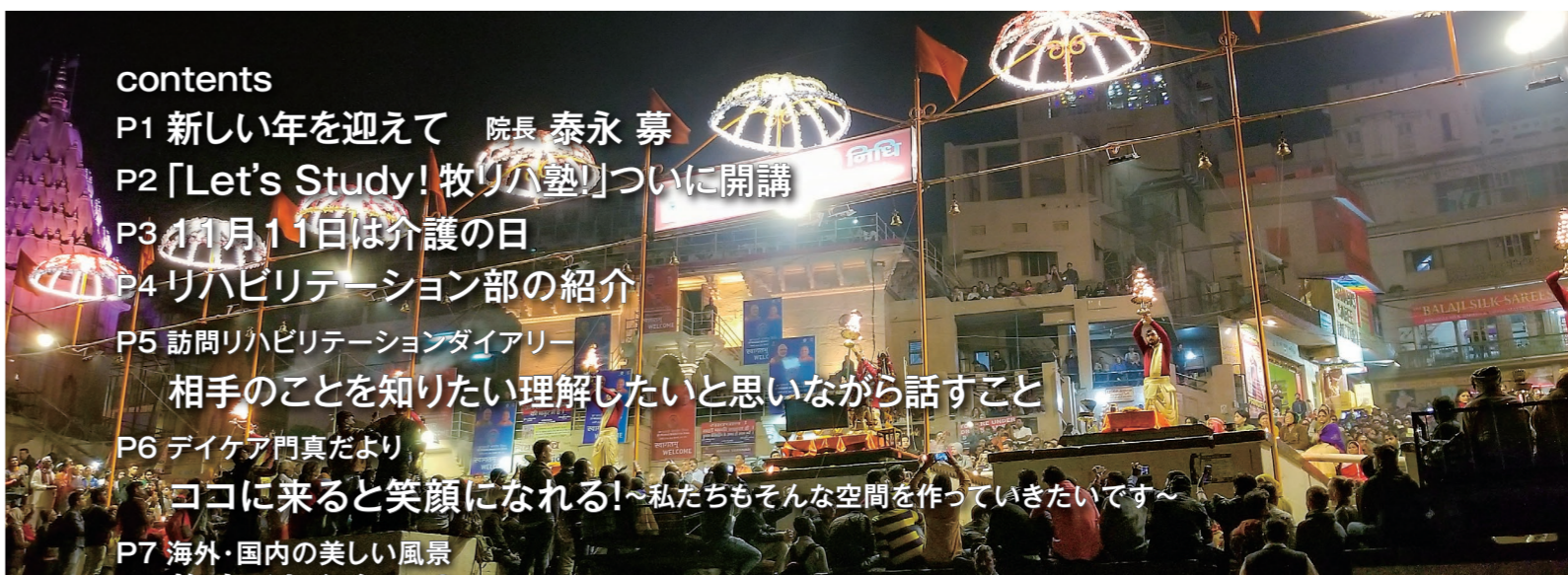
VOL.26 令和5年1月

私たちの理念

## Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

牧ヘルスケアグループは、地域の医療機関、介護事業所などと密接な連携をとり、予防から急性期、回復期、維持期、在宅の機能を担う「地域完結型の保健・医療・福祉複合体」として、みなさまの幸せな暮らしを支え続けます。私たちは「Medical for Happiness」の実現をめざしています。



## 新しい年を迎えて



牧リハビリテーション病院  
院長 泰永 募

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、新型コロナ感染症、ウクライナ情勢、統一教会問題、円安などが大きく報道されたように思います。新型コロナが猛威を振るい、当院も一時苦境に立たされました。ウクライナ情勢は、世界に不安感をもたらしました。統一教会問題で、政治は空転しています。円安は物価高騰を招き、市民生活に重くのしかかります。

一方、明るい材料もあります。(苦渋の判断だと思いますが)政府は行動制限を設けず、空港での水際対策も緩和し、「経済を回す」方針を取っています。スポーツ観戦や国内旅行も制限がなくなり、街に活気が戻り、外国人観光客が再び「爆買い」し、プラスの経済効果をもたらしていることは確かです。

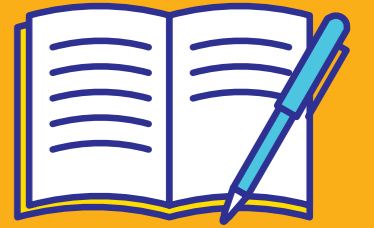
新型コロナ第8波の動向は不明で、「5類」に引き下げるという動きもあり、2023年を推し測ることは困難です。しかし、当院では過去の経験を糧に、コロナ対策を万全としつつ、回復期病院の仕事を地道にこなし、前に進むしかないと考えております。

それでは、「回復期病院の仕事」とは、本来どういったものになるでしょう。大学病院や総合病院に代表される急性期病院では、医療側が主体となり、患者さんに検査や手術を行います。即ち基本的に患者さんは受け身となります。回復期病院では、患者さんが主体となり、医療側はそのサポートに回ります。「歩けるようになりたい」、「身の回りのことは自分でしたい」、「食べたり、話せたりしたい」という患者さんのモチベーションを維持しつつ、回復の可能性を引き出す努力をしております。「できない」を「できる」に、患者さん自身が変えていく、医療側はそのお手伝いをする。そして、「できる」が増えるたび、患者さんと喜びを分かち合う。それが回復期病院の仕事であり、また、牧ヘルスケアグループの「あなたに寄り添う」というモットーに合致します。

繰り返しになりますが、このコロナ禍でも、患者さんに寄り添う医療を粛々と展開していきます。

どうか、本年もよろしくお願い申し上げます。

## 「Let's Study! 牧リハ塾!」 ついに開講



当院では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの院内勉強会の開催を中止してまいりました。しかしこの度、感染予防対策を十分に施し「Let's Study! 牧リハ塾!」という新しい勉強会をスタートすることとなりました。

「Let's Study! 牧リハ塾!」は、リハビリテーションを行う上で必要となる基礎的な疾患の病態・診断・治療等について、職種を問わず学ぶことができる優しい会を目指しています。

こうした勉強会を通じて病院全体のレベルアップに繋がっていきます。より良いリハビリテーションが提供できるよう職員一丸となって頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

牧リハビリテーション病院 教育委員会  
言語聴覚士 梶山 良平(かじやま りょうへい)

### Let's Study!! 牧リハ塾! 第一弾は「くも膜下出血の基礎知識(病態生理・診断・治療)」

講師は河野Dr. 12月9日(金)開講!!

牧リハ塾は、  
毎月第2金曜日開講  
時間:17時15分から1時間  
場所:2階会議室

みんなで  
勉強しよう♡

Coming soon!!



待望の門真杖  
ついに始動

塾生募集!! 年会費無料!!

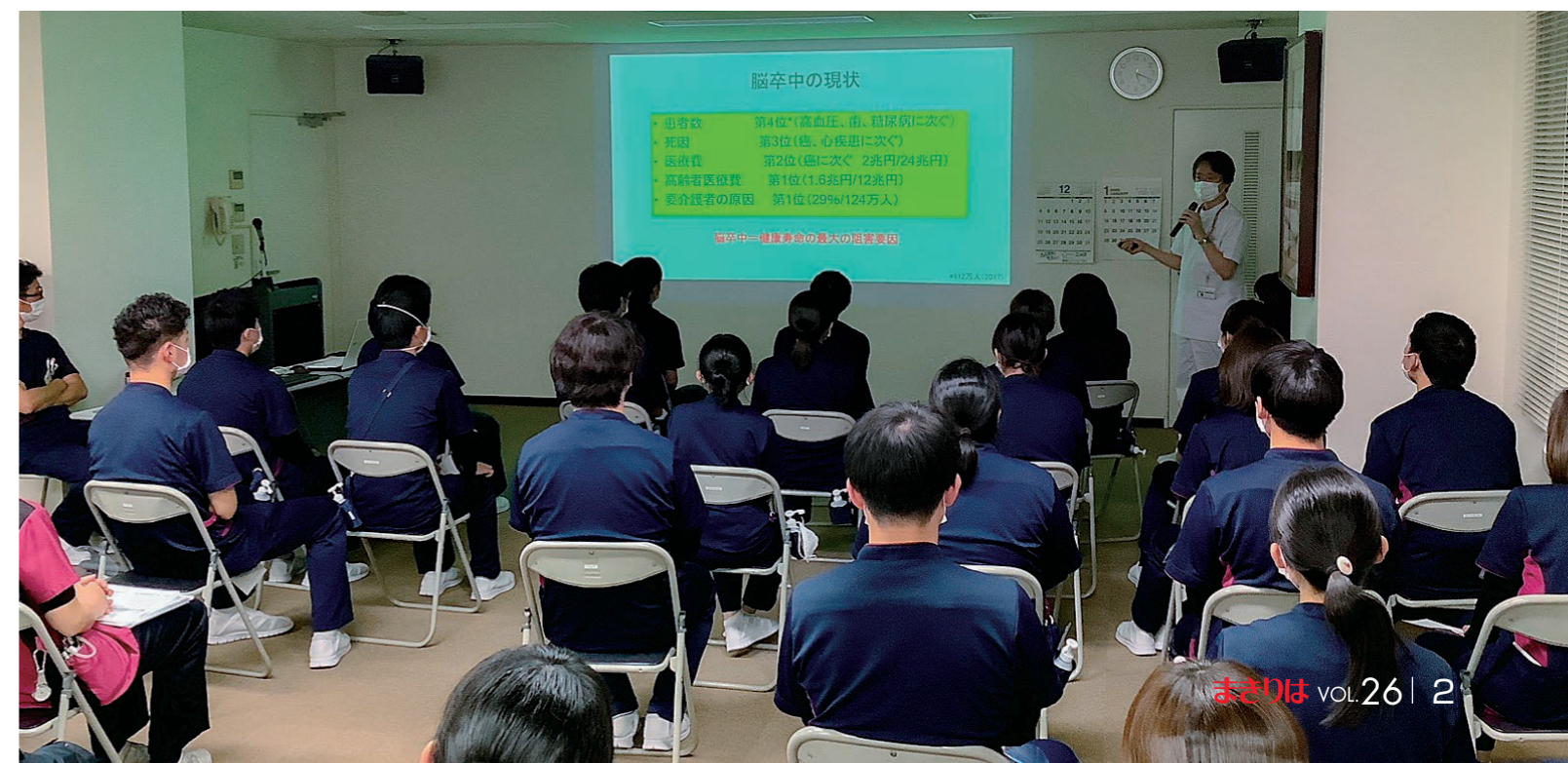
「君のやる気に応えるつもりだ」

「Let's Study! 牧リハ塾」は、誰でも理解できる優しい内容を目指しています。牧リハビリテーション病院 教育委員会

「Let's Study! 牧リハ塾!」は、  
楽しいポスターで盛り上げていきます!!

セミナー第一弾(2022年12月9日)は、河野副院長による「くも膜下出血の基礎知識」でした。大盛況で会を終えることができました。

第二弾(2023年1月13日)は、泰永院長による「脊椎について」を予定しています。



# 11月11日は介護の日

看護部



みんなで楽しく！  
当院オリジナルのSST体操！！

令和4年11月11日に介護の日のイベントを開催しました。

『介護の日』とは介護についての理解を深め、介護に関わる様々な方に対する支援とそれを取り巻く地域社会の支え合いや交流を促進することを目的とし、「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」を念頭に11月11日を「介護の日」として厚生労働省が定めたものです。

## テーマ『知って得する介護の日』

### ◎「介護予防体操をしよう」

当院オリジナルのSST体操

SSTとは「S スマイル」「S ストレッチ」「T 体操」の略です

### ◎「正しく選んで快適な生活を」

オムツの選定や種類、着用方法についての紹介



当日は両病棟で計39名の患者さんがイベントに参加されました。SST体操では元気よく、いきいきと楽しまれていました。

コロナ前はレクリエーションや食事前の体操がありました。久しぶりに皆で集まって体操が出来て良かったです。オムツの紹介については熱心に耳を傾けてくださり、オムツ着用の実演の際にはうなずいたりしながら、見つめておられました。退院後のオムツの選定に役立ててもらえればと思います。

このイベントは、コロナ禍が続き面会制限等でご家族にも会えずストレスを抱えておられる患者さんへ、入院生活に少しでも潤いがあるようにと考え実施しました。患者さんからは「良い運動になった～」「オムツの話分かりやすかった」「久しぶりに楽しかったわ～」など、嬉しいお言葉を頂きました。

来年こそはコロナが終息し、盛大に介護の日のイベントを開催できればと心から願います。

介護福祉士 吉田 順平(よしだ じゅんぺい)



## リハビリテーション部の紹介

当院リハビリテーション部は、患者さんに住み慣れた地域や社会でいつまでも「自分らしく」暮らしていけるよう、ご家族にも寄り添いながら、リハビリテーションを提供しています。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がそれぞれの専門性を持ち心身の回復を図り、院内の他職種とも協働しながら生活指導等にも取り組んでいます。

解放感のある明るいリハビリテーション室は、患者さんを中心にいつも笑顔がたえません。

諦めないリハビリテーションで、患者さん一人ひとりの「日常生活」や「自分らしさ」を取り戻せるよう、チーム一丸となって取り組んでいます。

### 理学療法科

理学療法士は、病気や怪我、手術などによって、身体の運動機能が低下した状態にある方を対象に、運動療法(筋力増強練習、関節可動域練習・歩行練習など)を行い、身体機能の改善を図ります。また、物理療法(温熱治療、電気治療など)によって、痛みや循環の改善を図ります。「寝返る、起き上がる、座る、立つ、歩く」など、生活の基本動作を練習し、日常生活の自立を目指したリハビリテーションプログラムを実施します。

### 作業療法科

作業療法士は、ご飯を食べる、トイレに行くなど日常生活行為を行うことが難しい患者さんを対象に、日常生活動作の練習を行い在宅復帰や社会復帰に向けた支援を行います。また自立支援に向けて、家事動作である調理や買い物の練習などに関しては、実際の生活場面に近い環境を想定して行っています。

### 言語聴覚療法科

言語聴覚士は、「話せない・理解できない」といった言葉の障害(失語症)、記憶・思考・学習・注意などの障害(高次脳機能障害)、食べ物が飲み込めない、むせるといった障害(嚥下障害)を抱えた方を対象に、自立した生活や社会復帰の支援を行います。対象となる患者さんの症状はそれぞれ異なりますので、色々な検査(言葉・記憶・飲み込みの検査など)で的確に評価するとともに、個々の患者さんの生活背景や個性に応じたリハビリテーションプログラムを実施します。



# 相手のことを知りたい 理解したいと 思いながら話すこと

みなさんは初対面の人やあまり面識のない方と話をするとき、緊張したりしませんか？

私は最近ある出来事がきっかけとなり、少し楽になりました。

80歳代のAさんのお宅にお伺いした時の話です。担当のスタッフがお休みとなったため、私が代わりに伺うことになりました。初めてお会いする方だったので緊張しながら挨拶をし、治療を開始しました。

「痛いところはありますか?」とお聞きすると、「実家が農家で、昔から農作業をしていたから足腰は強いんです!鍛えられているから痛いところも無いんだと思います!」とお話ししてくださいました。「実家はどちらですか?」とお聞きすると「宮崎の山手の方です。生まれは台湾なんですけどね」と。いきなり海外の国名が出てきたので驚いてしまい「何で台湾で??」と即座に聞き返してしまいました。

Aさんが生まれたその当時、台湾は日本に割譲(※敗戦国がその領土の一部の主権を戦勝国に譲り渡すこと)されていて、その間に両親が仕事の関係で台湾に渡っておられたとのことでした。

…実は私、今“歴史”にハマっておりまして、つい最近日清戦争あたりの話を聞いたところでした。なので実際に“その時代に生活されていた方からの話”を期せずして聞くことができ一気にテンションが上がり、どんどん質問してしまいました。するとAさんもその当時の生活や日本に帰るときの道中の話など、次から次に聞かせてくださいました。リハビリ開始時にあったお互いの緊張感とか不安は一瞬で吹き飛び、時間を忘れてしまう程でした。



この出来事があった日の帰宅途中、以前聞いたある言葉を思い出しました。それは、「私について全部理解している人だから好感を持つんじゃない、私について理解しようと努力してくれている人だから好感を持つんですよね」という言葉です。

今回のAさんとの話はまさにこれで、Aさんと会ってすぐの私は「良い関係性を築くために相手の興味のある話をしなければならない。そのために何に興味があるのかをまず聞き出し、それを理解しなければならない」と考えていたように思います。そのため、それが上手くできないかもしれないから「緊張や不安」を持っていたのでしょう。「しなければならない」ではなく「したい」だったんですね。こう考えると少し気持ちが楽になりました。

「相手に対して興味を持ち、相手のことを知りたい、理解したい」と思いながら話す。簡単なようで意外と忘れがち。まずは近い人との会話から意識してみてもいいのではないでしょうか?

理学療法士 紙谷 拓樹(かみに ひろき)

デイケア  
門真だより

# ココに来ると笑顔になれる!

~私たちもそんな空間を作っていきたいです~



明けましておめでとうございます!

令和4年10月より主任に就任しました石田聡子と、副主任に就任しました平川美千代です。

今までたくさんの先輩方の姿を見てきたつもりでしたが、いざ、自分たちがその役割を任されることになると、こんなにも色々な業務があるんだなと驚いています。

まだまだ先輩方のお力を借りないと、分からないことや難しいこともあり、改めて勉強の日々が続いています。これまで先輩方が創られてきたものを大切に受け継ぎ、新しいこともどんどん取り入れて、更に活気のある笑顔あふれるデイケアにできるよう2人で力を合わせてがんばっていきたいと思います!

写真左 主任 石田 聡子(いしだ さとこ)

写真右 副主任 平川 美千代(ひらかわ みちよ)



## 消防訓練を実施しました



10月17日守口門真消防署立会いのもと、消防訓練を実施しました。消防訓練は、火災発生時にスタッフが迅速かつ適切な避難誘導や初期消火活動、消防署への通報等が行え、入院患者さんの安全確保を図ることを目的としています。



病院は年2回の消防訓練の実施が義務付けられており、当院は内1回を消防署立会いのもとで行っています。今回は夜間の病院における火災を想定した訓練を行い、評価していただきました。そして、避難誘導訓練を終えた後、消防署の方から消火器の使用方の説明を受け、実際に水消火器を使用しての消火訓練も行いました。

普段から防火の意識を高めることが患者さんの安全を守ることに繋がります。万が一火災が起きた時に冷静な判断と行動が出来るよう、訓練を振り返り研鑽を重ねていきたいと思ひます。

